

1. 趣旨

この報告書は、「図書館法」(昭和25年法律第118号)第7条の3、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成24年文部科学省告示第172号)、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」(平成21年教育委員会規則第6号)第1条の2及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」(平成6年教育委員会規則第9号)第2条に基づき、令和2年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

2. 評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第3章 実施計画編(平成30年度～令和2年度)の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、令和2年度の市川市立図書館の評価を行った。

3. 評価の基準について

市川市立図書館の「7つの施策の方向」の各項目について、取り組み内容と目標値の達成度を総合してA～Dの4段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3つの柱」についての取り組みを4段階評価で表した。(3つの柱と7つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。)	A
概ね達成できた。(目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。)	B
やや不十分だった。(実施したが、十分な成果をあげることができなかった。)	C
不十分だった。(実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。)	D

4. 自己評価結果

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、緊急事態宣言に伴う2度の臨時休館となったが、「市川市立図書館運営基本計画」の3つの柱のうち「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」については、目標を達成することができA評価となった。特に、地域行政資料については積極的な収集を行い、パスファインダーや図書館ウェブサイト等様々なツールで地域情報を積極的に発信することができた。

「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、非接触でセルフ対応できるIC機器の利点が活かされたが、臨時休館の影響もあり、蔵書の受け入れ冊数と利用登録者数が目標値に至らずB評価となった。また、「子どもの成長をサポートする図書館」については、市の施設全体の方針により、読み聞かせをはじめとしたイベントや講座等の集会行事が全て中止となりB評価となった。

全体としては、7つの施策の方向のうち1つがA評価、6つがB評価であったが、令和2年度の目標は概ね達成でき、一定の成果をあげたと評価ができる。

5. 令和2年度市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見 …詳細は別紙

外部有識者2名(図書館情報学)から、令和2年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

# 令和2年度「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

## 総合結果

### 1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評価	<input type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input checked="" type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------

新型コロナウイルス感染症の影響(以下、「コロナ禍」と略す)を受け、前年度末より続く臨時休館中に新年度を迎えた。令和元年12月にIC機器導入後、数カ月で臨時休館となったが、休館明けの感染拡大防止策を取りながらの開館中は、職員を介さずに非接触でセルフ対応できるIC機器の利点が活かされた。また休館中には、ICでの蔵書点検を全館実施する等、IC機器の活用を図った。今後は、使い易さなど利便性を高めて、効果的な利活用に繋げてゆく。

蔵書については、適正な資料の選定・維持を図りながら、非接触・非来館も視野に入れた電子資料(図書)の導入・整備に努め、図書館利用を促進する取り組みを引き続き進めていく。

### 2. 子どもの成長をサポートする図書館

評価	<input type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input checked="" type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	--------------------------------------	---	---------------------------------------	-------------------------------------

コロナ禍で、市の施設全体の方針により、読み聞かせをはじめ、イベント・講座等の集会行事を中止した。そのため、テーマ展示やパスファインダーの作成等、今後の子どもの読書活動に寄与する基本的な業務やツールの作成を積極的に進めた。

今後は、児童向けにウェブサイトの充実やZOOM等を活用した取り組みを視野に入れていく。

### 3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評価	<input checked="" type="checkbox"/> A [十分達成できた]	<input type="checkbox"/> B [概ね達成できた]	<input type="checkbox"/> C [やや不十分だった]	<input type="checkbox"/> D [不十分だった]
----	---	--------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

パスファインダーや図書館ウェブサイト、Facebook等、様々なツールで、地域情報を積極的に発信することができた。デジタルアーカイブ・システムでの公開に向け、地域資料のデータ整備や画像登録の作業を進めたほか、地域情報データベースの更新等、多様な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成した。また、コロナ禍においても、継続的に行政各部署と連携した行事や展示を行い、必要な行政情報を市民に提供することができた。

今後も、地域の文化を後世に伝えるために地域資料の電子化を継続して行い、その活用を図っていく。

## 令和2年度の取り組み内容

### 一つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

#### 施策の方向 1-1 「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替えによる蔵書の適正な維持(購入と寄贈の合計冊数)	50,000冊	38,745冊	B
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・導入の検討	調査・導入の検討	
	・障がいの特性に応じた資料の収集と目録の整備	DAISY図書の目録の作成	DAISY図書目録追録の作成	
③効果的な蔵書管理	・図書館資料へのICタグの貼付及びIC機器導入と、全館的なICタグによる蔵書管理の実施	ICタグによる蔵書管理の実施	ICタグによる蔵書管理の実施	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の設置と活用	可動式書庫の活用	可動式書庫の活用	

#### 実績と評価

令和元年12月、IC機器を導入後に数カ月で臨時休館となり、臨時休館中に新年度を迎えることとなった。職員を介さずにセルフで貸出手続きができるIC機器の利点を十分活用することはできなかったが、休館中にICでの蔵書点検を全館実施する等、IC機器の活用を図った。  
蔵書の受入れ冊数は目標値の77.5%に留まった。消費税率引き上げに続き、休館により寄贈冊数も減ったこと等が要因としてあげられる。

#### 課題

コロナ禍で電子書籍の導入を進めた自治体が多く見受けられた。電子資料としての特性を考慮して、資料を選定し、障がい者等、利用対象を絞った取り組みも課題である。市場の成熟やコンテンツの充実を待たずに、市川市としての方針を決めて、いくつかの導入パターンを検討しておく必要がある。

#### 方向性

限りある予算を有効に活用するために、市全体としての蔵書のバランスを考慮した調整を図り、的確な資料選定を継続していく。

## 施策の方向 1-(2) 「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
① レファレンスサービスの実施	・レファレンスツールおよび事例集の提供	継続発行 ・発展	継続発行・発展(15回)	B
	・市内外の図書館等との連携の強化 (レファレンス協同データベースへの事例提供)	実施	実施 (207点)	
	・市民の学習要求や調査研究に答えるデータベース等の提供及び利活用の促進	実施	実施	
② 利用しやすい情報環境の整備	・図書館ホームページ、デジタルコンテンツ等の情報環境の整備	実施	実施	
③ 生涯学習機会の拡充	・中央図書館及び地域図書館の特性を活かしたサービスの拡充とPRによる利用の促進(図書館利用登録者数の拡大)	前年度比増 (前年度 28,405人)	16,290人	
	・北部地域の図書館サービスの充実	実施と周知	実施と周知	
	・イベントの開催や地域イベントへの参加・協力	実施	中止	

### 実績と評価

レファレンスサービスについては、コロナ禍で臨時休館や、対面での対応が行えない状況の中、メールでのレファレンス件数は2倍近くに増加したが、全館で44,983件の受付・回答となり、例年より減少した。事例集である「参考業務月報」を8回分発行したほか、市民の調査研究に十分活用できるものとして、既存のパスファインダーの点検をし、7つのパスファインダーの作成・改訂を行った。デジタルコンテンツについては、動画サイトに登録されていた市川市の広報番組「マイタウンいちかわ」の平成17年度以降の放送分を、デジタルアーカイブ・システムでWebからもキーワード検索ができるようにした。北部地域の図書館サービスについては、コロナ禍で公民館が休館となり、開室日数は例年より減っているが、一日平均の貸出冊数は、前年度並みを維持している。図書館利用の登録者数については、臨時休館の影響もあり、前年度の57.3%と目標値に至らなかった。ステイホームで読書する方が増えている中で、臨時休館中に新規登録希望者に対応できなかった点については、接触を避けながら登録を受け付ける工夫が必要であった。

### 課題

メール・レファレンスの周知、また、新たに利用者登録関係や類縁機関への紹介状発行といった事前手続きも含め、非接触・非来館でも図書館利用に繋げる方法を模索していく。

### 方向性

今回のコロナ禍で臨時休館せざるを得なかった状況は、今後の図書館サービスのあり方を考え直す機会として捉え、新しいサービスのスタイルを確立してゆく。

## 施策の方向 1-(3) 「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
① 関係機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携による図書館サービスの充実	実施	実施	B
② 大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施(1名)	
	・市内大学及び大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	中止	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施(2名)	
③ ボランティアとの連携強化	・図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	中止	
	・障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施	実施(22点)	

### 実績と評価

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、公民館は休館、学校は休校となり、公民館図書室や(学校内併設の)市民図書室等、関連施設での連携による図書館サービスは、約5ヶ月の休止となった。大学図書館については、年度を通じて学外者が入構できなかったことから、利用のための紹介状は発行できず、同様に相互利用のPR等も実施できなかった。また、ボランティア活動も縮小し、共催行事も実施できなかった。但し、自動車図書館については、戸外での貸出であることから、感染防止に配慮しながら運行した。

### 課題

関連施設の各々の役割を踏まえつつ、臨時休室など止むを得ない状況においても、市民が一定レベルの図書館サービスを享受できるような手段を講じておく必要がある。

### 方向性

関連施設で一定レベルの図書館サービスを提供するために、マニュアルの整備や研修を実施する。また図書館の活動を理解し、応援してもらえるように、ボランティア活動を支援し、実習生・インターンを継続して受入れ、大学とのネットワークの強化に取り組む。

## 二つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

### 施策の方向 2-1 「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	9,000冊	8,818冊	B
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	継続実施及び充実	縮小実施	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についてのレファレンスツールの整備	実施	実施	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	中止	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施(9回)	
	・中学・高校生へのヤングアダルトサービスのPR	実施	実施	

#### 実績と評価

資料の充実については、絵本や実用書を重点的に買い替えたが、消費税率の引き上げや本の単価上昇を受け、昨年度同様に受入れ冊数の達成率は目標値の約97%であった。

行事の実施については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため「読み聞かせの会」は中止とし、近隣市と比べて慎重な対応となった。その代わりに、「なつやすみどくしょマラソン」「lucky bag 2021」等、コロナ禍でも子どもの読書欲を掻き立てる試みを継続した。

市川市の花火大会は中止となったが、「花火についてしらべよう」というパスファインダーを作成し、夏休みの宿題や調べ学習等の問い合わせに対応することができた。

ヤングアダルトサービスについては、年間を通じて「YAルーム」を閉鎖したものの、福袋を模した「YA 図書館本A-Z」を実施し、「YA通信」「YA通信 入門編」等の刊行物は継続的に発行・改訂してPRに努めた。

#### 課題

コロナ禍が長期化することを想定して、利用者の安全性を確保しながらイベントの開催や運営等ができる方法を模索していく必要がある。

#### 方向性

前年度まで実施していた定例行事が、今回のコロナ禍で廃れることなく、内容を充実した取り組みができるように、職員による研鑽を継続する。

### 施策の方向 2-2 「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラム充実	実施充実	中止	B
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力 (資料依頼 391件)	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	前年度比増 (211冊受入)	260冊	
	・外部機関等と連携した児童・青少年サービスの拡大	拡大充実	縮小実施	

#### 実績と評価

「出張おはなし会」「学級招待」は、コロナ禍で中止せざるを得なかった。

「学校図書館支援センター事業」については、予定通り実施したが、休校の影響で利用が減少した反面、依頼に対して丁寧に対応することができた。学校図書館向けの貸出である「学級文庫」については、年度前期はコロナ禍で学校が休校だったため、後期に依頼が集中し、前年度比増の目標を達成できた。

毎年市内中学生に作成してもらっているヤングアダルト特集展示のためのポスターは、継続して実施した。

外部機関との連携イベントは、コロナ禍のため、実施しなかった。

#### 課題

学校図書館向け貸出資料については、学習指導要領の改訂にあわせ、多様化する調べ学習の要求に応えられる資料を計画的に購入し、充実させていく必要がある。

#### 方向性

コロナ禍が収束しない場合でも、学校図書館への支援や外部機関との連携は、感染対策に十分考慮した様々な取り組みを揃えて、状況に応じて選択できるよう用意していく。

また、コロナ禍であるからこそ、学校や外部機関を通して、子どもと保護者に向けて読書の大切さをPRし、積極的に読書支援、図書館利用の促進を図る。

## 三つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

### 施策の方向 3-1 「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	前年度比増 (前年度 59,449 冊)	60,875 冊	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施	実施	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域情報の追加及び更新	実施	実施	

#### 実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数は前年度を大幅に上回る事ができた。

中央図書館では、目録情報を整備し準備を進めていた『広報いちかわ』(旧『市川市広報』)の第1号から第 880号について、館内 Web-OPAC のデジタルアーカイブ・システムで公開した。また、動画サイトに登録されている市川市の広報番組「マイタウンいちかわ」(平成 17 年度以降)を、キーワード検索ができるようにし、デジタルアーカイブ・システムとリンク連動させて Web 公開した。

1952 年から 2001 年まで半世紀に渡り発行された『京葉市民新聞』について、マイクロフィルムからの画像変換作業を委託し、デジタルアーカイブ・システムに登録して見出しデータと紐づける準備を整えることができた。

そのほか、地域資料のパスファインダー「市川の地図を調べる」を新たに作成した。コロナ禍の臨時休館期間(テレワーク等)を活用して、地域情報の整理を行い、図書館ウェブサイトでの地域資料データベースの更新に努めた。

#### 課題

地域行政資料を永く保存していくために、十分なスペースの確保と、デジタル化等の資料の劣化対策を計画的に進めることが課題となっている。収集・保存している資料については、デジタル化への取組みとともに、広く市民が利用できるシステム環境を整備する必要がある。

また、令和3年度の図書館ウェブサイトのリニューアルに向けて、地域資料のパスファインダーやコンテンツの内容を点検し、追加・改訂していく必要がある。

#### 方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。デジタルアーカイブ・システムで館内公開する資料の追加更新をすすめるとともに、図書館ホームページの地域資料データベースを活用した情報発信を積極的に行っていく。

### 施策の方向 3-2 「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	内容充実	内容充実 (9 回)	B
	・市の刊行物等の販売及び行政情報リーフレット等の配布	継続充実	配布のみ実施 (販売休止)	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール情報の市の行政各部署への発信	実施	実施	

#### 実績と評価

コロナ禍の臨時休館により、行政各部署や関連団体と連携した展示は、回数が少なくなった。地域防災課、保健センター、地域支えあい課、農業振興課、芳澤ガーデンギャラリー等と実施し、毎年継続している展示については、展示する視点・観点を変え、連携内容を充実させた。

コロナ禍で、市全体としても集会事業等が開催できなかったため、イベントや行政情報等の配布物も例年より少なく、図書館で開催する連携講座も実施しなかった。

#### 課題

行政各部署に向けて、図書館が行政情報の集約・整理に努めていることを周知させていく必要がある。そのため、図書館側からの積極的な呼びかけを継続的に行うことが課題であり、目に見える形として、行政情報に関するパスファインダーの作成に取り組み、これを情報発信していく。

また、市民に向けては、図書館が集約した幅広い行政情報を、誰でも使えるように整理し、どこでもいつでも、わかりやすい形で早く情報提供していくことが課題となる。

#### 方向性

行政各部署や市内関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画するほか、身近な行政情報や市川の魅力を市民に積極的に提供していく。

また、図書館で利用できるデータベース等、役立つツールの効果的な活用法をわかりやすくPRし、行政各部署には、図書館のレファレンス機能を、地域の課題解決やまちづくりに役立ててもらえるように情報発信をしていく。

3つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者(図書館情報学)2名から意見をいただいた。

## 1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

・コロナ禍での臨時休館により、開館日数が前年度の7割ほどにとどまったため、貸出点数やレファレンス件数が、これにほぼ比例して減少したのは、来館での直接サービスを基本とする運営ではやむをえないことである。また、集会行事の多くが中止になったことも、利用登録者が前年度の6割に及ばなかった原因の一つであろう。その一方で、メールでのレファレンス件数が前年度の2倍近く、インターネットやスマートフォンによるリクエスト件数も増加し、限られたサービス環境のなかで、ステイホームでの市民の要求に、図書館はひとまず応えることができたことと評価できる。しかしながら、この状況下で最も期待されている電子書籍の導入が、調査・検討にとどまったのは、図書館としても認識されていることではあるが、喫緊の課題となったことは確かである。

その反面、直接サービスを十分に展開できなかつた分、ICでの蔵書点検など、図書館サービスを支える基礎作業に取り組んだことは、今後のサービス展開の基盤を強固にしたものであり、こうした図書館の地道な仕事について、市民の皆様にも広く知っていただければと願っている。ただし、昨年度にも指摘したが、蔵書の収集が目標値に達せず、8割にも及ばなかつたことには検証の必要がある。消費税率引き上げと寄贈冊数の減少が、前年度と同じく主因にあげられているが、この理由は適切とは言えない。消費税率の引き上げは2%、寄贈図書も前年度から1,500冊ほどの減少にとどまる。出版物の平均価格も前年度から3%程度の上昇である。外的要因によるというよりは、資料の選定に変化が生じていると考えるのが自然ではないか。目標値そのものの根拠も定かではないのだが、これによって自己評価を低くする必要はないと考える。

・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながらサービスを展開する必要があつたことから、必ずしも達成できなかった目標があることはやむを得ない。むしろ、IC機器導入による非接触のセルフ貸出やメールによるレファレンスサービスなど、実施できた事柄を評価したい。感染症に限らず、事故・災害などを含めて、制約が課せられる状況は想定されることから、どのような準備をしておけばよいのか、そもそも「市民の学びを支える」ために平常時から図書館がすべきことは何か、コスト配分の優先順位を見きわめつつ、市としての方針を(再)確認・構築してほしい。

なお、電子・オンラインコンテンツの導入・拡大は、もちろん有効・必要な取り組みであるが、既存のサービスを十分に代替できるとは限らない。「デジタル」にハンディのある利用者も少なくないと思われることにも配慮しつつ、ニーズを丁寧に分析し、予約制の来館利用、資料の配送なども含めた総合的な対応を期待したい。

## 2. 子どもの成長をサポートする図書館

・子どもたちを読書に、そして図書館に導く各種の行事が、中止あるいは縮小実施となり、図書館による場所と機会の提供が大幅に制約されたことは、おとな以上に子どもたちには影響が大きかつたと思われる。児童サービスと学校図書館支援は、市川市が全国の図書館を先導する誇るべき事業であり、持続可能な自治体であるための重点施策である。そうしたなか、子どもたちに好評な行事を可能な限り継続し、高いサービス水準を維持したことは敬服に値する。

家庭でのZoom等の利用が普及し、学校でのGIGAスクール構想がオンライン授業で加速している現状からすれば、コンピュータとネットワークを活用した行事によって、子どもたちに参加の機会を増やすことが期待される。また、増大する一方のサービス業務に対応するためにも、多様な環境にある子どもたちとその保護者のためにも、対面での行事が与える温もりを維持しつつ、ICTの利便性を取り入れた行事の展開を期待するものである。

・対面による行事・イベントなどは中止せざるを得ない状況を踏まえれば、当初予定を遂行できなかった事業があることは図書館の責に帰するものではない。むしろ、花火大会の中止を受けて花火に関するパスファインダーを作成するなど、可能な対応を工夫した点を評価すべきである。子どもたちの読書や学習をサポートするために、公共図書館としてできることを見つめ直す機会としてほしい。

もちろん投入できる資源は限られていることから、学校(図書館)などの役割分担・協力を含めて、市全体として子どもの成長を支えるという観点から、公共図書館だからこそすべき取り組みは何かを見きわめていくことが期待される。ウェブサイトの拡充やオンラインイベントの開催なども期待したいところであるが、学習指導要領改定に対応した資料の準備や調べ学習を含む利用の支援などは、コロナ禍の状況にかかわらず、優先度の高いものであろう。

### 3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・地域行政資料は、図書館の地力と存在意義を示すものである。その収集や整理はこれまでも充実していたが、市民の目には届きにくく劣化しやすい資料が多いだけに、情報発信と保存には大きな困難が伴ったはずである。そうしたなかで、目録情報の整備は煩雑であったにもかかわらず、広報紙や広報番組の組織化などに成果を上げたことは立派である。地域の記憶を記録として定着させていくデジタルアーカイブの構築について、引き続き推進をお願いしたい。

また、図書館は市役所という行政機関の一部である。市民に対するサービスとして、行政情報を集約し提供していくとともに、市役所の各部署に対するサービスとして、行政情報を広範に取り扱うことも求められている。コロナ禍のために、展示や配布物が少なく、連携講座も開催されなかったのは致し方ないが、市民にとっての市政情報室、市役所職員にとっての組織内専門図書館として、その付加価値を高め、行政情報の専門サービスを展開していくことが望まれる。

・一般資料は量(だけ)でなく質も重要であるのに対し、地域・行政資料は質(だけ)でなく量(どの程度まで収集できているか)も重要であることを踏まえれば、地域行政資料の蔵書冊数が増加したことは、市川市の図書館として役割を果たしているといえる。市川市の文化・まちづくりを支えるという観点から、行政各部署との協力をさらに積極的に進め、市全体として必要な資料・情報の収集・蓄積と提供が確実に遂行されていくことを期待したい。

オンラインを含めた多様なメディアを活用したツールの整備、アーカイブの構築、コンテンツの配信などの取り組みは、感染症対策(あるいは今後における事故・災害などへの対応)としてだけでなく、平常時にあっても市民のアクセス可能性を拡大する点において有意義である。積極的な展開を期待したい。

## 総 評

・コロナ禍のなか、感染拡大防止策を講じながら、与えられた条件下において、図書館は非常によく運営されたと認識している。平時における尺度からすれば、今回の評価は妥当であると言えるが、非常時における尺度からすれば、すべてA評価でもよいのではないかと考えている。

この未曾有の状況に直面して、電子情報や電子機器の有用性が確認され、非接触・非来館サービスのために、情報環境の整備とコンテンツの充実が、現実の課題として大きくクローズアップされてきた。それと同時に、集会行事や閲覧のための機会と場の提供も、図書館にとって不可欠な機能であることが、改めて確認できたのではないかと理解している。

コロナとの戦いは現在も続いている。ここで指摘したことほとんどは、現時点で実行に移されているに違いないであろうが、巣ごもり状態の市民生活にあって、図書館が必要な存在であることを市民の皆様にも実感していただくことが、今後の図書館の発展にとって大切なことだと思っている。

・いずれの項目においても、自己評価は妥当である。コロナ禍における運営には多大な負担・困難があったと思われるが、図書館サービスを維持・提供するためにさまざまな工夫が重ねられている。職員をはじめ、関係者に敬意を表したい。

図書館に求められる社会的な役割を常に認識しつつ、いわゆるウィズコロナ・アフターコロナの運営について、計画的に、しかし柔軟に取り組んでいくことを願っている。図書館(あるいは市)の持つ資源(コスト)にはもちろん限りがあることから、市民を含めた協働をさらに進めていくことも期待したい。